あおい通信 第193号

第193号 令和 3年6月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区大泉学園町6－9－21
電話 03－3978－0919

富士五湖「精進湖」

富士五湖めぐり

子抱き富士：精進湖湖畔の他手合浜から富士山を眺めると、富士山とその手前にある小さな山（大室山）が重なって見え、これがまるで富士山が子どもを抱いているように見えることから子抱き富士と名づけられた。

精進湖（しょうじこ）

山梨県南都留郡富士河口湖町にある湖。富士五湖のひとつで、西から2番目、東から4番目にあたる。富士箱根伊豆国立公園の特別地域内にある。

「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」の「富士山域」の一部として世界文化遺産の構成要素に含まれている。

同じ富士五湖の西湖、本栖湖と同一の水脈を有しているので水面標高も同じく約900mで、湖水の水位が連動する傾向がある。最大水深は15・2mで河口湖と並び3番目の深さ。0・5平方kmと五湖中で最も湖水面積が狭く、流入河川および流出河川はない。

成因

富士山の火山活動によって形成された堰止湖で、本栖湖・西湖と同じ水位である。かつては単一の大きな湖（剗の海・せのうみ、「背の海」の意か）であったと考えられているが、富士山の溶岩流でまず南西の本栖湖と分断され、『日本三代実録』に拠る864年（貞観6年）の貞観大噴火の溶岩流によって西湖と分断された。この際には、溶岩流が湖水と接触したことによって水蒸気爆発が起こり、半円形のクレーターが形成されている。

名前の由来

精進湖という湖名は、富士参詣者が湖で沐浴して精進潔斎したことに由来する説や、（かつての単一湖「せの海」という名称も関連し）富士の背にあたることから「背地」（せのち）と呼ばれたとする説がある（『甲斐国志』による）。

水質と生物相

栄養湖でプランクトンが多く、湖色も緑色。1930年代の調査でも富栄養化していたがそれ以降も富栄養化は進行しているため、透明度は3m程度である。赤潮が発生することもある。ヘラブナやワカサギ、ブラックバス、タニシなどが生息している。

東西南北

池江選手はこんな言葉を言っていた。「日本で負けるのは、今年で最後ときめていた」女子50メートル自由形決勝は池江にとって、今大会11回目だった。スタート前、コーチに誓った。「絶対、勝つ」白血病の闘病生活で落ちた筋力は戻りきっていない。飛び込んでから15メートルは8選手で最も遅かった。そこからの伸びが段違いだった。一気に抜き去り、冷静なレース運びで表彰台の頂点に立った。昨年5月に本格的な練習を再開した頃はチームメートについていけなかった。表彰台に立てなかったレース後の取材には、「気持ちよく泳げた」と答えていたが、関係者の前では悔しさを隠さなかった。「努力は必ず報われる」を胸に「自分がすごく辛くてどうしても、努力は必ず報われるんだという風に思いこみ続けました」白血病から復帰した競泳女子の池江瑠花子選手が4日、東京五輪代表選考会を兼ねた日本選手権の100mバタフライ決勝を制した。泳ぎ終えた後の、この言葉に衝撃を受けた。池江選手がどれだけつらく、悔しい道のりを歩んできたか。自然と出た言葉だったのでは。本当によくここまで戻ってきてくれた。2年前の今ごろは、抗がん剤を使って入院していたという。今まさに病と闘っている方、そして新型コロナと闘っている方など、すべての人の心に届いた言葉だと思う。

病に倒れるまで国内で敵なし。勝負へのこだわりは強まった。だから、五輪代表選考会である今大会の目標を「王座奪還」に決めた。栄養士の指導に加え、夕食後にラーメンをかきこむなどして体重を戻した。

K・ドラゴン

談話室

ゴールデンウイークをも含み、五月十一日までの緊急事態宣言が五月末日まで再延長された。その前期の緊急事態宣言の経過観察に何の良い結果を得られず、だらだらと目的意識をもたない状況の中延長される。経済は回らず国民生活も自粛々々で衰退の一途を辿っていくだけの様に思える。そんな中5月の第2週日曜日「母の日」に向けた優しい「働くパパママ川柳」を読んだ、優秀作には新型コロナウイルス感染拡大で変わったお母さんたちの日常をわかりやすく切り取っている。

〈オンライン　画面の下は　秘密基地〉

育児をしながらの在宅勤務には、人にいえない苦労が少なくないのであろう。

〈休園で　母のレシピも　そこをつく〉

学校や幼稚園の休校でそんな悩みも。子供が昼ご飯を家で食べるようになり、献立をかんがえるのは一層大変になり、食事の支度や掃除などの家事負担も増加しがちだったようだ。

〈おうち時間　むしろ減ったよ　ママ時間〉

コロナ禍のピンチを家事や育児分担の在り方を変えるチャンスにできたはずなのに、お母さん任せの現状が悪化しただけとしたら残念でならない。

〈テレワーク　ママより仕事　楽と知る〉

「パパ目線賞」の作品が、男性の意識改革の必要性を教えてくれる。

〈コロナ禍で　ママ友ゼロの　初育児〉

「母の日」を母親になって初めて迎えたお母さんも多いことだろう。親子が安心して出掛ける日をいつまで待たねばならないのだろうか。

ヨッチャン

◆編集委員会より

「あおい通信」は皆様からの原稿を募集しています。

係員・飯島

「危機は危機」でも

山村匡子

中国武漢で新型コロナ

感染症が流行し始めた時、私は戦後初の翻訳小説「雨ぞ降る」を思い出した。映画化もされたが、インドの西のアラビア海で生じた熱い上昇気流がヒマラヤ山脈にぶつかりインドに雨を降らせる。雨が何日も降り続き氾濫し疫病が蔓延し始めた時、インド人の青年医師と米人ナースが奮闘し最悪の事態を食止める。そして二人は？という粗筋だったと思うが、武漢の流行も局地的で収まるものと私は高を括っていた。ところが新型コロナウイルスはあっという間に世界中に蔓延し、東京でも最初の感染者や大型客船ダイアモンド・プリンセスで感染者が出はじめたが、まだ世間は平静でいた。その後安倍元首相の緊急事態宣言の頃には一気に緊張が高まり「戦争以来の危機だ」という発言を聞いて、私は戦争と今度の危機は全く違う、今は空腹を抱えて空襲に怯えたり、焼け出され家を失ったり、不満を漏らして警察に引っ張られることもないと思った。

戦争は昭和１２年の盧溝橋事件から始まり、最初の頃は南京や重慶の陥落で東京では花電車や提灯行列で沸いたが、若い働き手が徴兵されると食料事情が悪化、Ｓ１４年の頃に米の配給制度が始まって、米穀通帳は命？より大事な物となった。駅前には「千人針」を求める女性たちが並び、街には「欲しがりません勝つまでは」「贅沢は敵」とか「打倒鬼畜米英」等の標語が貼られ、小学校は国民学校に、そして「金やダイヤ等の貴金属が強制的に供出」父の愛車ダットサン・ロードスターは軍に徴用されていった。私の生家は神田でシャツ製造卸業を営んでいたが働き手の若い衆が次々と出征し、繊維品も統制されたので廃業。世田谷の古家を改築して移り住んだ。

畑や竹林に囲まれ自然は豊かだったが、蠅や蚊、土埃には悩まされ、廊下の拭掃除は４年生の私の役割になった。

食糧事情も次第に悪くなり、軍隊が優先で市民には代用食として大豆等が配給されるようになった。満州のコーリャンは炊くと鮮やかな深紅になり驚いた。その配給も薯類や油を搾った脱脂大豆等が途切れ途切れの配給で食糧不足は深刻化した。

一方、日本の木と紙の家には爆弾より焼夷弾の方が有効と気付いた米軍は焼夷弾で東京を攻撃。市民は連日Ｂ２９の不気味な爆音に悩まされた挙句、Ｓ２０年３月の大空襲で焼け野原と化した。卒業式も中止、私の通信簿には卒業したことを証明すると書かれていた。だから敗戦を迎えた時、疲れ果てた日本人は無抵抗で進駐軍を受け入れ、竹やりで抵抗することもしなかった。その状態を見て進駐軍が最初にした事は食糧を配る事と、碌に入浴も出来ず垢まみれだった人々の虱退治で、虱がいようといまいと公平に殺虫剤ＤＤＴで頭から足まで真ッ白にされた。

そういう危機を乗り越えて今の日本が在るのだが、自由を謳歌している今の人達には様々な制限は辛抱できない事かもしれない。しかし此のコロナ下では出来るだけ行動を制限することが自分を守る術だと思う。

利用者さんの紹介コーナー

田中　敏光（水、土）

葵に通所を始めて半年あまりたちました。午前中はマット体操など運動。午後は、麻雀、将棋などをやります。昼食は美味しいので、楽しみです。今のペースで続けていければいいな、と思っています。

東大泉の今昔

橋本廣子

此処東大泉は、昔東京府北豊島郡大泉村土支田字久保（現在の東大泉一～三丁目にまたがるあたり）という表示であった。昭和七年東京府は、周辺の郡部を二十区に再編成し、従来の支部十五区を合併して三十五区とした。明治二十二年以来の練馬の各町村、石神井村、大泉村等は東京市板橋区に編入された。板橋区は旧東京市十五区に匹敵する東京一の面積となった。又この時大泉村は東西南北の大泉町となった。板橋区役所は東大泉から遠い。鉄道は有っても二時間に一本位では弁当持参で一日仕事だったとか。そして板橋町は工業地帯、練馬や大泉方面は農村地帯、相反する施策が必要なことは明らかだったので、練馬区置期成会が結成された。

しかし間もなく戦争が相次いで、この運動は捗々しい成果をあげることなく敗戦を迎えた。

戦後占領軍の地方自治制度改革の指令に依り昭和二十二年三月に都は三十五区を二十二区に統合した。練馬方面は依然として板橋区に含まれていた。再び練馬区分離独立運動が展開された。期成会の幹部が占領軍総司令部へ陳情に行ったこともあり、様々な困難を経て漸く、東京都時十三番目の特別区として練馬区が誕生した。それは昭和二十二年八月一日のことであった。その後昭和五十五年から住居表示制度が変わり東大泉〇丁目〇番〇号という風になった。私は橋本家に嫁いで来て六十年余、人生の三分の二以上もこの東大泉で生きて居るが、周囲はすっかり変わってしまった。練馬から東大泉へかけての田園風景も消え、一基しか無かった丸いガスタンクも数が増した。

昭和六十年より大泉街道の拡幅工事が始まり東大泉一丁目から大泉駅へ向かって車道と歩道が出来、街路樹もその下を彩る、つつじも植えられた。両側にはビルが建ち次々に大泉学園駅もその周辺も高層ビルと商業施設が出来、更に駅から離れた所でも畑がなくなり、戸建住宅が密集していて、昔の面影は全く消えた。今や東大泉は住み良い街のトップだそうだ。

雑談室

「ほんまでっか?」

明石家さんま師匠本職は落語家と云うが、現在はなかなか面白い司会者振りで不思議な人気物である。他にもバラエティＴＶ番組や自身の名前番組もある。

「ほんまでっか」というその番組は世間でチョット不思議な出来事や人間の心理を様々な角度から学者が分析・解釈して心理状態を解説すると云う形式でのバラエティーで人間心理の裏面を暴く、興味を引く番組だ。

話題の方向性は変わりますが「ほんまでっか?」はおなじみの関西弁。この「ほんま」は【本真】と云うれっきとした漢字がある。多くの辞書を引いてみると載っている。意味は文字通り、本当であること、真実であること。不思議なもので漢字をながめつつぶやいてみると、軽やかさが消えて重たい響きがにじむような感もある。

かなり前の話題で恐縮ですが昨年の二月ころの話題を思い出した。神戸市のこども家庭センター（児童相談所）で、親から家を追い出され保護を求めてきた小学６年の女児（12）を職員がインターホン越に追い返したという。女児がセンターを訪ねたのは２月の上旬、真冬の寒さの中の午前３時30分頃だったとされる。そんな時間に子供が訪ねてくれば一般の家庭でも心配でドアを開けそうなものだが、職員は「警察に行って」とろくに話も聞かず、数秒で通話を閉じた。当直業務はＮＯＰ法人が受託していた。悲惨な虐待事件が次々に起きるなか、どうしてこれほどの使命感の無い職員が、いち早く子供の被害を察知せねばならない現場にいるのだろう。こんな報道に触れた時、にわかに信じがたかった。本真ですか？・・・

雑学館

「豆腐」（とうふ）

腐った豆と書いて豆腐、しかし腐ってもいないのになぜ「豆腐」？豆腐は中国で古くから食べられていた食材で、日本へ伝わるのは奈良時代頃とされているが、本当のところは分かっていない、名前は中国でもおなじように「豆腐」と書く、だが、中国語の「腐」は「くさる」という意味ではなく「ぷよぷよしたもの」「固まる」という意味だった。「豆で出来たぷよぷよした食材」なので「豆腐」とつけられたのだ。それが日本に伝わり「豆腐」として親しまれたという。